

著者とひととき



西洋美術の紹介者、テレビやラジオ番組のコーナー、時計などを収集する趣味人。そんな多彩な顔を持つ才人が、初の小説を発表した。「僕も死をリアルに感じる年になってきた。今思うと、書きたくなくなった背景には、死は遠ざかるべきものだとする現代の風潮に対する違和感があった気がする」

主人公は出版社勤務の「俺」。ある日、約40年前に別れた恋人「テコ」から会いたいという連絡を受ける。かつて二人乗りのバイクで旅に出た末、幼い失敗によって仲間を失った「俺」は、テコの手を借りようとする。舞台は大阪、小学生の頃に東京から移り住み、高校までを過ごした土地だ。少し背伸びしながら歴史ある建築物などを見て回る青春期の二人を通して「たご焼きや」

真夜中のカーボーイ
山田 五郎さん

灯台からの響き

宮本 輝 著



主人公・牧野康平は、父から受け継いだ東京都板橋区の中津屋「まきの」の暖簾を、妻の蘭子とともに30年以上守ってきた。だが2年前、蘭子が亡くなった。以来、康平は店を閉めて、ひたすら盛りしてきた店を、ひとりひとりで見ていく。とてつもない、と思つたのだ。

最愛の妻を失い、店も閉めた。康平の日常は、単調な生活で、康平自身も六十一歳のひきこもりのおっさんになってしまつた。若々しいだけに立ち直るのは難しい。とてつもない響きを感じるようになっていた。

そんなある日、あまりの分厚さと難解さに、何度も読むのを後回しにしていた本を手に取った康平は、その本に挟まれていた一枚の葉書を見つけた。

それは、見知らぬ名前の男子大学生から、蘭子宛てに宛てられたものだった。ここから、康平の、自分が知らなかった妻探しの旅が始まる。

康平の旅に寄り添うのが、日本全国にある灯台だ。

男子大学生の葉書に、どこかの岬らしいジグザグの線と「灯台巡りをしました」と書かれていたことがきっかけで、康平自身、灯台の持つ佇まいと、そもそもの灯台の存在意義に引かれてい

亡き妻探す 再生の旅路

物語は、この康平の旅と並行して、康平の周辺にいる人物たちのドラマも描いていく。とりわけ、康平を誘った向かわせるきっかけを作った古くからの友人カンちゃんがかんがえられた後、ある心筋梗塞で急逝した後、ある女性との間の忘れ形見がいることが発覚するのだが、その青年・多岐川新之助と康平との交流がいい。

康平の妻の親友で、再生の旅路に重なる。一人の人間の営みには、あまたの人がかかわっている。そのあまたのひとりひとりにドラマがあることが、読後胸に残る。しみじみと滋味深い一冊である。

在日コリアンとしての出自をめぐる葛藤と再生を「ひとかどの父へ」と「緑と赤」でみずみずしい文学作品に昇華させた深沢潮の新作は、家長長制の日本社会でたくましく生き抜く二人の女性の物語。未婚で出産した福美は幼い娘を抱えて困窮するが、母乳があふれるほど出るため、政治家一家に乳母として雇われる。

一方、広告代理店に勤務する奈江は、その政治家の息子と結婚し、3年に及ぶ不妊治療を経て出産するが、母乳が出ないことで義母に責められる。2人は同級生。奈江にいじめられた過去を持つ福美は、奈江の息子に自分の母乳を与えて優越感に浸るが、嫁を追いついた義母のたくらみを知り、罪悪感にも駆られる。

そんな福美(わたし)と奈江(私)の一人称の視点から章ごとに入れ替わることで、母乳によって母となり得た女性と、母乳によって子を放手した女性の相克がサスペンスフルに活写される。しかも冒頭は2000年10月。前世紀から始まった物語は20年間疾走し続ける。その筆致はまさに深沢潮の境地地だろう。

心に刺さる意志の強さ

「わたしは女性には、国家の乳母ではないんです」。奈江の言葉はいきさか硬くて人々の反発を招くが、心にまっすぐ突き刺さる強さがある。それは、スキャンダルのように姿勢を低くして物語の飛距離を伸ばし、この着地点にたどり着いた作者の意志の強さでもある。女性を優しく勇気づけ、男性を奮い立たせる物語だ。



ふかさわ・うしお 1966年東京都生まれ。作家。2012年「金のおぼろ」で『女』による女のためのR-18文学賞を受賞。

夫婦は年金額が減らされる出産促進法が施行された日本において、2人ともに女性の役割を押しつけられた犠牲者だ。それが生きつづけるを懸命に乗り越えていくが、その先に個人ではどうにもならない社会構造がある。

この構造に立ち向かうには2人は連帯しなければならぬ。だが、さて物語はどんな展開を迎えるのか。息をつめるようにして読み進めると、思いがけない景色が広がった。

小説で見つめた生と死

お笑いといった庶民的なイメージとは異なる、外から来た自分だから見える大阪のいい部分」も描こうとした。当時の音楽や文化もふんだんに盛り込まれている。

2人は思い出を再現するかのような旅に出る。そして道中、人間観や死生観を語り合う。「人は自分の死を体験しない。あるのは最後の瞬間まで続く生だけ。死をしっかりと見つめるからこそ、人はそのことに気付く。逆に死と向き合っていると生がほやけしてしまふと思うんです」

団塊世代より後に生まれたいわゆる「らけ世代」。「はなから斜に構えたところがある。何かが100パーセント信用し、夢中になることができないところがある。そのためか、若き日々の回想場面はノスタルジーを感じさせつつも、美化した印象は与えない。

「若い頃は怖いものがなかった、なんてうそです。若い頃の方が怖いものだらけでした。人生の残り時間が少なくなっていく中で、かえって怖いものが増えましたね」

「真夜中のカーボーイ」は幻冬舎・1430円

八月の銀の雪
伊与原 新著

新田次郎文学賞を受賞した著者に、よる短編集。さまざまな事情を抱えて生きる人々と、壮大な科学的真実が響き合い、独特の詩情を生む。表題作の主人公は、就職活動に失敗し続けている男子大学生。見下されたベトナム人のコンビニ店員とひたひたから交流を持ち、真の姿を知る。「十一年の西風」では、福島を目指していた原発の下請け会社の元社員が、茨城の海岸でたこ揚げをしていた男と出会う。いずれの物語でも人間の尺度を超えた世界が示され、再び一歩を踏み出す力となる。

(新潮社・1760円)

新刊抄
棚からつづ貝
イモトアヤコ 著

人気テレビ番組「世界の果てまでイッテQ!」で「珍獣ハンター」として活躍し、100カ国以上を訪れたほか、キリマンジャロ山頂への登山にも挑戦してきた著者が、番組ロケの裏話や、自身の交友関係などをつづった初のエッセイ集。

「ミャンマーの貧しい村で出会った少年が、ありったけのお菓子をプレゼントしてくれた思い出や、結婚相手となる番組スタッフとの出会いとロケを通じて信頼を深めていったエピソード。何事にも全力で取り組む著者の姿勢が伝わる一冊。

(文芸春秋・1430円)

Business&Culture

横尾忠則 創作の秘宝日記

横尾 忠則 著

美画家の横尾忠則が2016年5月から20年6月までの4年間、週刊紙上で公開した自身の日記を書籍化。創作の源泉と位置付ける「夢」の話から飼猫への愛、作家らとの交流まで、飾らない言葉で語り尽くす。

日々の書き出しの多くが、「前の日に見た夢」で始まる。しかし、次第に夢と現実の境目はあいまいに。作家の三島由紀夫と谷崎潤一郎、映画監督の黒澤明から三者三様の創作アドバイスを送られたり、依頼



鹿渡り
白石ちえこ 著

どこまでも続く雪原を、あるいは光が差し込む木立の中を、エゾシカたちが駆け抜けていく。静かで透明感をたたえたモノクロのシルエットは、一枚の絵のようだ。

気鋭の写真家による、5年ぶりの新作写真集の舞台は北海道。光を反射する海、薄曇りの空、コハクチョウの群れ。静まりかえった北の地で「空と森とシカが」に連なる「様子」を目にした著者は、「神聖なものを見てしまったようなおどろきと、自然に包まれるようで、冬の訪れ



Art&Comic

県からのお知らせ

各記事の詳細内容は各お問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

被災者生活再建支援制度～令和3年4月10日で申請期間が終了します～

震災により住宅が全壊するなど、生活基盤に著しい被害を受け基礎支援金を受給した世帯に、住宅の再建方法に応じて加算支援金を支給しています。

- 対象/被災当時、仙台市、石巻市、塩釜市、気仙沼市、多賀城市、東松島市、七ヶ浜町、女川町、南三陸町にお住まいで、既に基礎支援金を受給している方(建設・購入)、「補修」区分で加算支援金を受給済みの方は申請できません。
- 支給額/建設・購入200万円、補修100万円、賃借(公営住宅を除く)50万円
- 世帯別の人数が1人の場合、支給額が4分の3となります。
- 申請期限/令和3年4月10日(基礎支援金および対象地域以外の加算支援金の受付は終了しています)
- 申請窓口/基礎支援金を申請した市町の被災者支援担当課など
- 各市町被災者支援担当課
- 消防課 ☎022(211)2372

12月は年末の交通事故防止運動月間です

年末は、交通量の増加や、心理的な疲労たし、飲酒機会の増加、積雪・凍結等による路面状況の悪化等の様々な要因が重なり、交通量が増加します。

心に余裕と適度な緊張感を持ち、安全な速度で、交通ルールを守り、年末の事故を防ぎましょう。

一瞬にして人命を奪う飲酒運転は、危険性のある凶悪な犯罪です。

飲酒運転は絶対にしない・させないようお願いします。

●総合交防対策 ☎022(211)2438

NPO等を対象とした専門家相談支援事業

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている県内のNPO等が、専門家へ活動継続のための各種助成金等申請相談、運営相談、税務相談、法律相談などを行う場合、相談に係る費用の一部を助成します。

- 対象/各種書類作成・申請代行は除きます。
- 補助対象者/NPO法人、公益社団・財団法人、一般社団・財団法人(非営利型法人に該当する法人に限る)
- ※要件は、募集要項をご確認ください。
- 助成上限額・助成率/1団体当たり5万円を上限、4分の3に相当する額(千円未満切り捨て)を助成
- 申請期限/2月8日(月)まで
- 申し込み/相談申し込みから助成金の支払いまでを県内の申請支援組織2団体(NPO法人の伝言板)による、NPO法人さんだ、みやぎNPOセンター)が実施します。
- 共同参加社会推進課 ☎022(211)2576

宮城県森林インストラクター養成講座受講生募集

- 資格/満20歳以上県内在住の方で、講座終了後、森林ボランティアなどに積極的に参加できる方
- 選考方法/小論文、面接
- 定員/40人程度
- 費用/無料(予定)。その他必要に応じて図書購入費などの負担
- 受講期間/令和3年5月～令和4年1月までの主に土日祝日の18日間
- 申し込み/令和3年2月12日(金)までに(消印有効)、①申込書②履歴書③小論文④応募動機と抱負(800字程度)⑤返信用封筒(84円切手貼付)を記入し郵送により下記へ
- 申込書/ホームページからダウンロードまたは「養成講座資料請求」と書いた封筒に、返信用封筒(84円切手貼付)を入れて下記へ
- 詳しくはホームページをご覧ください。
- 980-8570(住所記載不要)
- 自然保護課 ☎022(211)2676

宮城障害者職業能力開発校 令和3年度短期課程訓練生募集

- 科名/総合実務科
- 内容/導入訓練のコース体験と基礎訓練を行った後、専門コースで訓練を行います。基本的な生活習慣や体力増強の他、職場規律と幅広い実務作業ができる知識と技能の習得を目指します。
- 対象/定員/療育手帳所持者・30人
- 訓練期間/令和3年4月8日(木)～令和4年3月10日(木)
- 選考日/令和3年1月29日(金)
- 申込期間/令和3年1月8日(金)までに所轄のハローワークへ
- 宮城障害者職業能力開発校 ☎022(233)3124 FAX022(233)3125

北朝鮮人権侵害問題啓発週間

12月10日(木)～16日(水)は「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です。

この機会に、国民的な課題である拉致問題をはじめ、北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めましょう。

●国際企画課 ☎022(211)2972

働く障害者ふれあいフェスティバル

●内容/県内の障害者就労支援事業所などで働いている障害のある方が作った製品を、障害のある方自らが販売するイベントです。クッキーやケーキなどのお菓子、原材料からこだわったパン、新鮮な野菜や産物をこらした手工芸品などの製品を多数取りそろえています。お問い合わせの上、ぜひお越しください。

- 日時/12月8日(火)～10日(木)午前10時30分～午後2時
- 場所/県庁1階ロビー
- 障害福祉課 ☎022(211)2541

女性医師による女性の健康相談

思春期や更年期に伴う身体的・精神的不調、家庭や職場でのストレスなど健康について悩んでいる女性の相談に応じます(完全予約制・相談無料)。

- 相談日時/12月12日(土)午後2時～4時
- 会場/大河原駅前コミュニケーションセンター(オガ)
- 予約先/090(5840)1993(月曜日～金曜日(祝日を除く)午前9時～午後5時)
- ※予約は上記携帯電話のみ受け付けます。
- 健康推進課 ☎022(211)2624

夜間や休日のおとな救急電話相談は「#7119」へ

夜間や休日の急な病気やけがで、すぐに病院へ行った方がよいのか迷うときや、応急処置方法が知りたいときの相談ダイヤルを開設しています。

相談員がアドバイスを行うほか、受診の必要性や医療機関を案内します。

- 対象者/おむね15歳以上の宮城県在住の方
- 相談/☎#7119
- プッシュ回線以外-PHS ☎022(706)7119
- 受付時間/①月曜日～金曜日(午後7時～翌午前8時)、②土曜日(午後2時～翌午前8時)、③日曜日・祝日(午前8時～翌午前8時)(24時間)
- 医療政策課 ☎022(211)2622

企画展「空襲・占領・復興 太平洋戦争と戦災復興の記録」

今年は、太平洋戦争の終戦から75年を迎えました。戦時中、宮城県内は空襲による被害を受けましたが、終戦直後から市街地の復興に取りかかりました。またこの間、日本は連合国軍の接収統治を受け、宮城県にも部隊が駐留しました。企画展では、空襲、占領、復興の3つに焦点をあてて、当館が所蔵する公文書を紹介いたします。

- 日時/～2月21日(日)午前9時～午後5時
- 場所/宮城県図書館2階展示室
- 宮城県公文書館 ☎022(341)3231

小・中学生保護者への就学援助制度

経済的理由により就学が困難な小・中学生の保護者の方は、学校教育法の規定に基づき就学援助(学用品費・給食費など)を受けることができます。

また、被災(東日本大震災・東日本台風)により、就学困難となった児童生徒の保護者を対象とした就学支援制度も実施されています。

※申請方法など詳しくは、お住まいの市町村教育委員会にお問い合わせください。

●各市町村教育委員会
- 義務教育課 ☎022(211)3642

企画/宮城県広報課

河北 Books

読んで、学んで、備えよう!

あなたのまちの取り組みは?

発行 河北新報出版センター

〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-2-28
TEL022-214-3811 FAX022-227-7666
https://kahoku-ss.co.jp/

YouTuberアドバイザーに聞く
災害からも感染症からも命を守る
ウィズコロナ時代の
防災・減災の心得

35市町村の防災・減災施策

2021 定価700円+税 好評販売中!

みやぎ防災ガイド

お求めは、書店、河北新報販売店、または河北新報出版センターまで。

河北新報配達地域にお住まいの方が、河北新報販売店または出版センターに書留の本をお申し込みの場合、自宅や職場に配達致します。配達無料(ただし、一部に配達できない地域もあります)。